

## 1 大雨の備えについて町の考えを問う

大雨による河川の氾濫は各地に大きな被害をもたらし、ここ数年、命に関わる報道も珍しくない状況にある。

大雨に対する警戒から6月には、河川の水位が氾濫の危険がある高さになると発表されていた「氾濫危険情報」を、水位が急激上昇した場合にも出すなどの措置が取られた。7月には、九州地方を中心に激しい雨に対する注意がしばしば報道され、大雨の予想範囲は九州から関東・東北までの広い範囲に及ぶこともあった。

また線状降水帯の発生報道も珍しくないほどで、大雨による災害の発生は身近な問題としてとらえなければならないのが現在の日本ではないかと思う。

大雨による河川の氾濫で一番重要なのは早めの避難であり、本町が大雨により浸水した場合の状況は、平成31年2月発行のハザードマップにより町民に示され、避難に関する情報も周知された。

今後は、早めの避難がスムーズに行えるよう避難訓練などを重ね、大雨に備えることが重要である。

また、町内河川・水路の氾濫を回避するため、護岸整備や、安全で使いやすい堰の整備とその運用など、設備面での準備も必要だと考える。

そこで、大雨による被害から町民の命と財産を守るため、大雨の備えについて町の考えを問う。